

学年	教科	科目	教科書名	副教材名
高校3年	芸術・美術	美術I	高校生の美術1（日本文教出版）	画用紙 工芸材料等

1. 授業のねらい

- ・社会や実生活での芸術作品の役割や意義を考え、その関わりを意識します。
- ・自分が作り出すものが生活の中で、どのような働きかけが出来るか考えます。また、自分と他人の作品、世に出ている作品を鑑賞、考察することで客観性を育むとともに、様々な考えや個性の存在を認識します。
- ・現在および将来において芸術作品に親しみ、心豊かな生活を営む姿勢を育成することを目指します。

2. 授業のすすめ方

- ・過去の生徒参考作品、教科書・資料や作家の作品や製品を見せながらイメージを練ります。
- ・アイデアスケッチや試作を行い、制作の方向性が決まってから実制作をします。
- ・作品制作中にも教員、生徒間でアドバイスや意見を交換して完成度を高めます。
- ・完成後、自他の作品を鑑賞し、講評や意見交換をします。
- ・iPad、電子黒板など適宜利用して授業を展開します。

3. 学習上の留意点

- ・授業は全て美術室で行います。週2単位なので、行事や試験で間が開いてもすぐ再開できるように時間ごとの到達点を明確に設定します。
- ・画材（個人使用の絵の具など）は必要に応じ各自用意とします。
- ・始業集合時間の遵守。

4. 副教材・参考書

- ・プリントや制作材料（基本的な物は教科で用意）、画像など参考用資料を予め用意します。適宜、各人で参考資料の収集を推奨します。

5. 評価方法

- ・課題作品（評価全体の70パーセント）。
表現作品としての完成度。
制作条件の中での工夫や表現内容の豊かさ。
- ・授業の取り組み姿勢（評価全体の30パーセント）。
完成作品に至るまでのアイデアスケッチや試作品。
計画性、提出期限の遵守。
制作に対する熱意。
積極的な授業参加の姿勢。
出席状況、授業に相応しい態度。
- ・定期考査
実施しません。

指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	四月	○絵画作品の制作 ●空想画 ～想像をかたちにする～ 日常・非日常を問わず想像力を飛躍させテーマを考察する。 ○鑑賞 美術家や過去の生徒作品を鑑賞・考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの提出。 ・アイデアスケッチの提出。 ・彩色作品の提出。 ・授業に対する姿勢。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の選定，調査・考察。 ・グローバルな視点からの考察。 ・テーマを練る。 ・複数枚スケッチを描く。 ・意図が伝わるとともに見た人が楽しめる工夫。 ・画材の性質を把握し，題材と仕上がりの印象が合うようにする。 ・他人の作品を鑑賞し，優れた点を発見する。
	五月	○具象から抽象までの様々な表現のなかから各人に見合った方法を選択する。 ・アイデアスケッチを複数枚描く。 ・四つ切り画用紙に彩色し，描く。		
	六月	画材の選定は各自の作風や狙いに沿ったものを使用する。		
	七月	・1学期のまとめ・講評		
二学期	九月	○絵文字のデザイン 文字の形や意味をもとに，絵画的表現や装飾化することでインパクトのあるイメージデザインをする。 ・鉛筆でラフスケッチを複数描く。 ・画用紙に下描き，製図・着色して仕上げる。 ※本学期の授業日程により，実施しない場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に取り組む姿勢。 ・アイデアスケッチの提出。 ・作品の提出。 ・デザインスケッチの提出。 ・完成作品の提出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品について調査・考察。 ・文字のデザインが美しくかつ意味が明瞭に成立している。 ・試作を通し七宝の特性を感得する。 ・デザインの決定。 ・七宝技法の習得。 ・作品と飾り台がマッチングする。 ・作品の完成。
	十月	○金属工芸・七宝焼き		
	十一月	日常で使用することを念頭に置いた装飾品として制作する。 電子黒板等で製作工程の紹介をする。 ・実物大のデザイン画を考える。 ・銅板を作品の形に切り出す。 ・槌で銅板を打ち出す。 ・銅板に七宝絵具を施し，焼成する。 ・飾り台，吊り下げチェーンなどを取り付けて完成。 ※試作品制作後に本制作を行う。		
	十二月	・2学期のまとめ・講評		
三学期	一月 二月 三月			

※シラバスの内容（時間や事項）については，理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。